

下北沢地域の地域愛着に関する研究のご説明

- 研究の目的：

地域愛着とは「人と地域の心のつながり」を指し、地域への思いやりや責任感、幸せな気持ちに影響を与える大切な要素です。

この研究では、下北沢地域（下北沢駅から 1km 圏内）を対象に、さまざまな立場の方々が**地域に愛着を持つまでの過程**を明らかにし、**より良いまちづくり**のための提案を目指しています。

- これまでの進み具合：

昨年 12 月に「**下北沢へのラブレター**」というワークショップを開催し、参加者の方 10 名を来街者・短期住民・長期住民の三班に分け、街歩き、愛着地図づくり、愛着要因についてのブレインストーミングを通じて、下北沢の好きなところについて自由に話し合っていました。



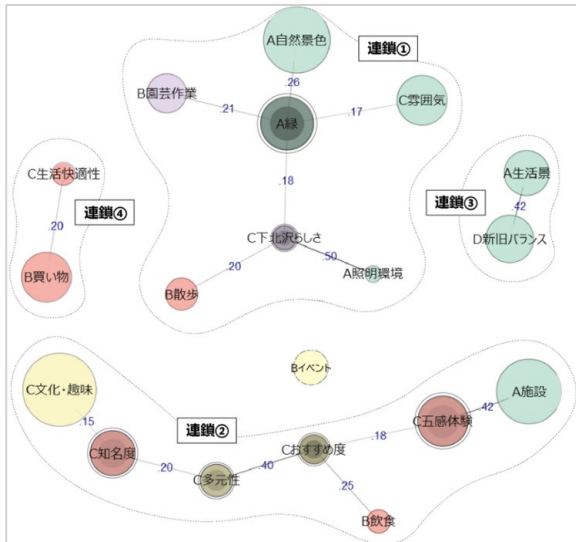
各班の会話テキストと記録内容から、地域愛着に関連する文言を抽出し、そのうち意味内容が類似すると判断した文言を 33 個の「要素」グループにわけ、さらに空間、行動、短期体験、愛着体験の四種類に分けて、KHcoder という言語分析ツールを用い、各班の地域愛着の語り方を明らかにし、**愛着形成プロセスを再現**できました。詳しい結果は次のページ（裏面）をご覧ください。

- 今後の計画：

ワークショップで得られた知見をもとに、**今回のアンケート**でより多くの方の声を**数値的に分析**していきます。

それぞれの立場の方々の地域愛着ストーリーを理解することで、下北沢や他の地域でも役立つ**まちづくりの提案**ができると考えています。

一人ひとりの声を大切に、地域に根ざした調査を進めてまいります。
皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします！

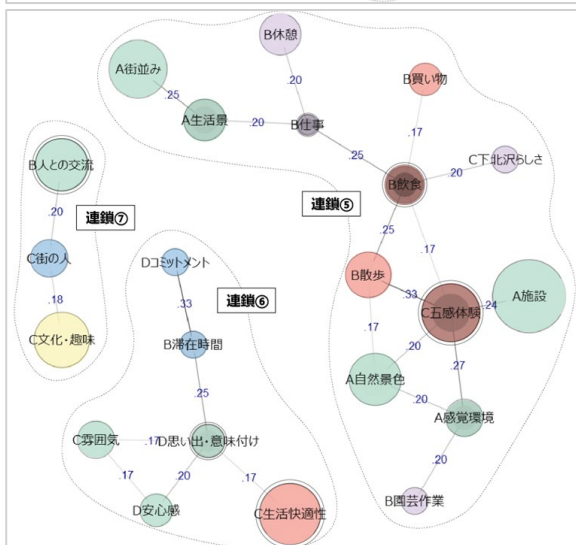


・来街者班の愛着ストーリー：
施設での消費行動と自然景色から
まちの特徴と雰囲気を感じる

非日常的な「緑」「下北沢らしさ」に触れ
まちに対する認識を構築する

「おすすめ度」「多様性」などの
インターネット情報共有により
愛着動機のステレオタイプな側面

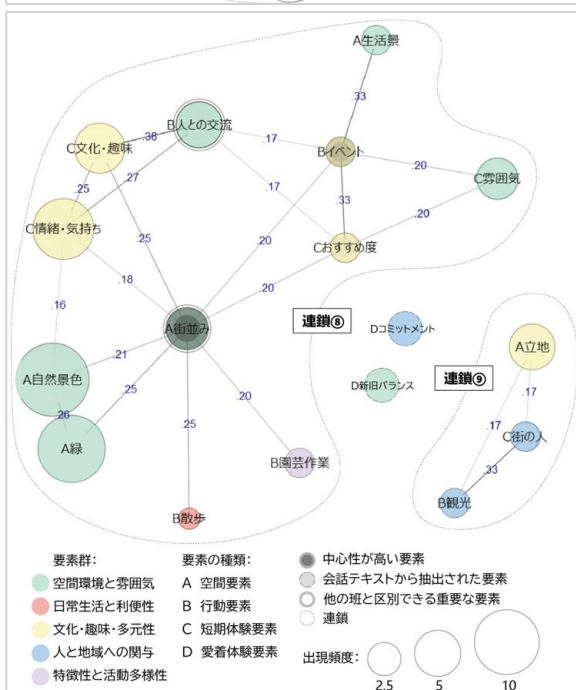
唯一の愛着要素「新旧バランス」では
歴史感・生活感のある空間環境が
愛着対象として認識される



・短期住民班の愛着ストーリー：
日常生活から趣味実現までの
ライフサイクルを楽しむ

「飲食」「散歩」など多様な日常を体験
地域の「人との交流」が深化

地域に対する自分なりの
「思い出・意味付け」が形成されていく



・長期住民班の愛着ストーリー：
文化交流、地域参加により
自分のまちを守る

「買い物」など機能的側面ではなく
「文化・趣味」「人との交流」など
精神的要素が重要視されている

「観光」に対する両面的な態度が現れ
疎外感というマイナスの愛着体験

まちを自分の家の一部として認識する
自らのアイデンティティとみなされる
「街並み」は愛着体験を象徴する

要素群：
● 空間環境と雰囲気
● 日常生活と利便性
● 文化・趣味・多様性
● 人と地域への関与
● 特徴性と活動多様性

要素の種類：
A 空間要素
B 行動要素
C 短期体験要素
D 愛着体験要素

● 中心性が高い要素
● 会話テキストから抽出された要素
● 他の班と区別できる重要な要素
○ 連鎖
○ 出現頻度： 2.5 5 10